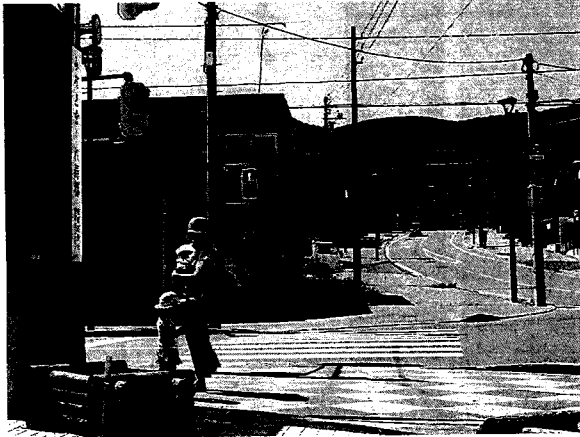
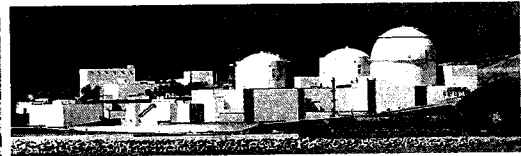


こちら特報部

①人影が少ない北海道寿都町の中心部＝8月24日
②神恵内村から15kmほどの距離にある北海道電力泊原発＝8月22日、北海道岩内町で



北海道の寿都町と神恵内村が相次いで核ごみ最終処分場の調査に手を挙げた。調査に入れば国内初。とはいえ、十萬年以上の管理が必要なスーパ汚染物質の持ち込みへの第一歩だけに、反発は強い。反対する住民が行政に意思を示す手段の一つが、住民投票やリコール（解職請求）など直接請求権の行使だ。寿都町では住民投票への動きが具体化。過去には投票で原発建設が止まったケースもあり、今後の動きが注目される。（大野孝志、中山岳）



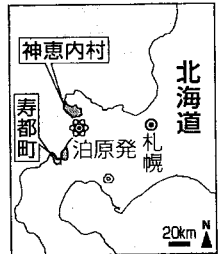
アパートの一室で栽培されていた大麻草（愛知県警提供）

となっている。十万人当たりの摘発者数で見ると、若者の増加

々増加し、一九九九年は四三〇・一キに手を出してはいけぬ」と警に上った。瀬戸さんは「自家栽培 告した。

二ヘースの追跡

寿都町「住民 深く分断」



かつてはニシンで栄え、今も漁業と水産加工が盛んな寿都町は、秋サケのシーズンを迎えた。町の人たちは、サケを塩や酢に漬け込んで熟成させる飯寿司作りや、イクラを採る作業に追われている。その町が大問題で揺れている。町が核ごみ（高レベル放射性廃棄物）最終処分場の文獻調査に応募したのだ。核ごみは約二十秒で致死量に達する放射線を発する物質。応募に反対する水産加工業者の若手らが中心になって「子どもたちに核のゴミのない寿都を！ 町民の会」をつくり、調査を阻止しようと走り回る。七日には調査応募の賛否を問う住民投票条例の制定を求め、有権者二百四十人の署名を町選挙管理委員会に提出した。地方自治法

核ごみ最終処分場 北海道で初調査へ

は有権者の五十分の一以上の署名で、条例の制定や改廃を直接請求できると定めている。寿都町で必要な署名数は五十一。それを大きく超えたことになる。ところが片岡春雄町長（七）は翌八日に応募を表明し、九日には原子力発電環境整備機構（NUMO）に書類を提出。住民の意思を確認せず応募したことになった。片岡町長は八日の会見で「町が分断される前に判断しなかった」と述べていた。とはいえ、応募方針にはすでに強い批判が出ていた。町内でペンションを経営する穂合和幸さん（七）は「町長は署名を無視してやりたいたげだ」と激怒する。八月下旬には、住民投票の直接請求とは別に町内外七千八百人分の反対署名が提出されている。反対派の幸坂順子町議（七）は「町内の複数の事業所で、署名するなという圧力があつたとも聞く」と明かす。それでも提出時点で町民署名は六百九十五人分で、今は八百人を超えている。今後は、直接請求による住民投票条例が制定されるかどうか焦点になる。審

隣に泊原発 神恵内村 「反対には勇気がいる」

議する町議会は「スムーズに行けば十一月中に開かれるのでは」（町選管の担当者）という見通し。関係者によると議員は五対四で応募賛成派が多い。一方、寿都町から四十キロ離れた神恵内村。アイヌ語で「カムイ・ナイ（美しい神の沢）」に由来した漁村でも、寿都町の応募と同じ九日に高橋昌幸村長（七）が文獻調査を受け入れること正式表明した。だが、元漁師の松館勝治さん（八）は「反対署名や住民投票の声は聞こえない。村長をリコールしたらと思うけど、寿都ほど盛り上がりがない」と語る。背景には、隣の泊村にある北海道電力泊原発の存在がある。原発の立地村と扱われ、交付金はピーク時で年四億円に上った。その金を学校の改修や漁業施設の整備、保育士や消防士の人件費などに充ててきた。村職員OBの松谷堅志村議（七）は「漁業の後継者は育たず、原発関連の仕事に就いている人も多い。人口八百人ほどの村で隣近所は親類同然。大きな声で反対と言っるのは、かなり勇気が必要だ」と明かす。

黒い髪にも 白い髪にも 薄毛にはブラック処方

薬用 ブラック加美乃素 PREMIUM

6種の有効成分配合

気になる増え始めた抜け毛・薄毛に!

販売名: ブラック加美乃素 (N)

髪に白髪 2つの田

ブラック加美乃素 PREMIUM M 髪と頭皮に 黒育毛剤

こちら特報部

過去には何度も住民の反対運動や住民投票で、原発や核関連施設の建設が止まっている。

二〇〇七年一月、高知県東洋町が最終処分場の文献調査に応募した。すると、住民が猛反対し、当時の町長は辞職。同四月の出直し町長選で反対派の新人が当選し、応募は撤回された。

石川県珠洲市では、一九七五年に浮上した珠洲原発の建設計画に反対する住民運動が二十八年続き、北陸電力など電力三社は二〇〇三年十二月に計画を凍結。〇六年六月の市長選で反対派の候補が当選した。

そして一九九六年の新潟県巻町（現新潟市西蒲区）。東北電力の原発計画を住民投票で止めたのだ。投票結果では、反対が六割強を占めていた。住民投票を推進した市民団体「巻原発・住民投票を实行する会」は、中立の立場を強調し、成功につながった。元代表で、投票時に町長だった笹口孝明さん（セシ）は「住

住民の力で撤回例も

高知・東洋町 処分場

石川・珠洲市 原発計画

新潟・旧巻町 原発計画

核のごみの最終処分場建設までの流れ
科学的特性マップを提示

文献調査(約2年) 資料で活断層の有無などを調査

概要調査(約4年) ボーリングなどにより地下の岩石や地下水の性質を分析

精密調査(約14年) 地下深くに調査施設を設置、地質や岩盤を直接調べる

最終処分場の建設地を決定



原発立地の是非をめぐる全国初の住民投票で街宣活動する推進、反対両派の市民団体＝1996年7月、新潟県巻町（現新潟市）で

選定過程 民意の反映不十分

三段階は地下に調査施設をつくらせて調べる精密調査で約十四年かかる。調査を受け入れると、国から自治体に交付金が払われる。第一段階で最大二十億円、第二段階で最大七十億円になる。寿都町の一般会計予算が五十億円余、神恵内村が二十億円余だから、かなり大きな額だ。

交付金ほしき!?
気になる町長発言

気になるのは、片岡町長が一日、文献調査は第一段階で「最終処分場受け入れまで行く話ではない」と発言したこと。多くの町民は、交付金をもらって途中で打ち切る「もらい逃げ」を狙っていると感じた。そんなことは可能だろうか。

投票日前は賛否を表明せず、町民総意で将来の道を選択する必要があると投票を広く呼び掛けた」と振り返る。

町内では各家庭に連日、賛成、反対両派のチラシが配られた。笹口さんは「原発は、町民とその子どもや孫の将来にも関わる極めて重要な問題。住民は賛否にかかわらず幅広い情報を得た上で投票することが大切だ」と語る。地域のつながりが強く、賛否分かれる問題に口をつくむ町民が多か

った。問題意識が高まり、投票日が近づき、はっきり意見できる人が増えた。地元の未来に影響するのは最終処分場も同じ。なにせ、核ごみは十万年にわたる保管しなければならぬのだ。その建設地選定は三段階で進んでいく。

第一段階は文献調査。寿都町、神恵内村はこれを受け入れた。約二年かけて資料で活断層の有無などを調べた。第二段階は概要調査。掘削して地質や地盤を調べる。期間は約四年。第一

処分場選定「国民的議論促し民主的手続きに」

途中で止めなければならぬ決まりではないというところ。木場さんは「自治体が途中で反対しても、NUMOの恣意的な判断で次の段階の調査や最終処分場の選定が進む可能性がある」と警鐘を鳴らす。

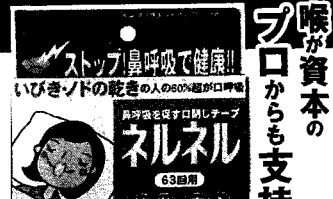
では、最終処分場の選定はどうあるべきか。龍谷大の大島堅一教授（環境経済学）は「今の選定プロセスは、住民の意見を十分に反映できない。地層処分安全基準すら定まらないうちから、科学的知見を十分に取り入れていない問題もある。このままでは、住民間の分断が激しくなり、いずれ失敗するだろう」と切り捨てる。

そして大島さんは「交付金を使って事業者が選定を進めるやり方を根本的に改め、国が国民的な議論を促して民主的な手続きに作り直すしかない」と唱える。

確かにお金は大事だ。高齢化と過疎が進み、財政が厳しい地域なら、なおさらだろう。しかし、そんな地域に大金をちらつかせる人々には、必ず何か腹がある。発展の夢を抱いて原発を受け入れた地域に、いったい何が起きたのか。十年近く前にみん嫌というほど見たはずだ。

健康呼吸は鼻です！ 睡眠中の鼻呼吸が喉を守る！

口閉じテープ「ネルネル」は、睡眠時に口が開くのを防ぎ、鼻呼吸を促します。つまりは単純ですが、いびきのメカニズムをしっかりとらえているので、貼るだけで自然とスムーズな鼻呼吸に。素材は通気性がよく、上下に伸びにくい不織布。かぶれる心配も少なく、息苦しさを感ずることもありません。最初は違和感がある人も中にはありますが、2～3日続ければ慣れてハガさなくなります。



いびきで悩む人の助けになる
池田いびき研究所 推奨

乾きの口呼吸
鼻で異物を除去し湿ります。これに対し口呼吸は喉を痛めたりします。鼻呼吸をすることで、呼吸時のいびきの音となります。